

編集後記

第26号をお届けいたします。コロナ禍が始まっておよそ2年となりますが、いまだ収束の見えない状況が続いています。こうした状況のもと、中国語学・中国文学の研究を取り巻く環境もめまぐるしく変化していますが、会員のみなさま方におかれましては、それぞれの場所で奮闘なさっていることと拝察いたします。

このような中、今号には、論文三編と訳注一編をお寄せいただきました。上原先生論文は、王褒「九懐」について、その宮廷文学的特徴と文学史的意義を改めて検証しています。木村先生論文は、王延寿「魯靈光殿賦」乱辞を対象として内容と音声表現の分析を試みています。平良先生論文は、近代沖縄漢詩研究におけるこれまでの経緯や今後の課題について、明解に整理し論述しています。矢田先生の訳注は研究グループの成果であり、これまで重視されてこなかった漢代楚辞作品を取り上げ、その再評価を目指しています。

なお編集にあたっては、矢田尚子准教授、張佩茹准教授、菅原尚樹研究助手にご尽力いただきましたことを付言いたします。(代表 土屋育子)

執筆者紹介（論文掲載順）

木村 真理子	東北大学大学院文学研究科
上原 尉暢	大谷大学真宗総合研究所特別研究員
平良 妙子	琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科准教授
矢田 尚子	東北大学大学院文学研究科准教授

東北大学中国語学文学論集 第26号

2021年12月30日発行

発行者 東北大学中国文学研究会（代表：土屋育子）
発行所 東北大学文学部中国文学研究室
980-8576 仙台市青葉区川内 27-1
電話 022-795-5977
